月刊
新翔タイムズ
第76号
新翔タイムズ編集室
発行・熊野新聞社

生徒ら団結力発揮
40回記念「七海祭」

今年で40回目となる新翔高校「七海祭」が、11月14日（金）・15日（土）の２日にわたって開催された。40回目の記念すべき七海祭を革新的なものにしていこうというテーマ「The 40th Seven-Sea Festival ～七海祭40回目の革新！」のもと、文化祭実行委員会を中心に準備が行われた。

１日目は、実行委員会企画として制作されたＤＶＤの上映、１年生の展示、２・３年生のステージ発表、新翔ソニックが行われ文化祭を盛り上げた。２日目は、食物バザーや新翔マーケットをはじめ、クラス企画、文化部の作品の展示などが行われた。この日は一般開放日のため、作品の見学やバザーにたくさんの来場者が訪れ、にぎわいを見せた。生徒会企画の「宝探しゲーム」では、本校生徒はもちろんのこと、一般来場の方も参加して大いに盛り上がった。

２日間を通して、生徒達は自分たちの活動を楽しんでおり、いつもとは違う一面を見せていた。また、クラス企画やバザーなどを通して、各クラスの団結力が見られ、すばらしい文化祭となった。

各部門の最優秀賞は次の通り。

【展示部門】　１－５　ペットボトルアート
【ステージ部門】　３－１　ダンス
【食物バザー部門】２－４
　フランクフルト・ホットドッグ・ビーフシチュー

卒業後の食生活のため
3年生対象に食育講座

10月29日(水)に、3年生対象に食育講座「健康的な食生活と自己管理―一人暮らしの食生活―」を開催した。10月は和歌山県の食育推進月間としていることを受け、卒業後地元を離れ就職・進学する者も多いため、食生活の重要性を考えてほしいと計画。講師は東牟婁振興局健康福祉課長の高橋伸行氏。一人暮らしの健康管理に関して、保険証と常備薬を準備しておくこと、また、近くの病院の電話番号や診療時間、救急病院を確認しておくことが大切である。また、自炊派、外食派、中食派で食費の金額を比較し、自炊のメリットについて、生活技術が身に付くだけでなく経済観念も身に付くと話した。栄養バランスをとるには「一汁三菜」をイメージした食事を心がけることや、容易にできる野菜不足、カルシウム不足の解消法も具体的に説明した。ご飯や肉、きのこ類の冷凍、解凍法などの話や、いまどきの一人暮らし向け電気製品や、狭い台所での調理器具の収納方法など、簡単にでき、役に立つ話であった。

講座を聴いて、「これから自炊をしなければいけないので、とても参考になりました」「バランスのよい食事をとって仕事をがんばりたい」「自炊が一番経済的なので自炊したいと思った」「食事のことが不安だったが、話を聞いて一人暮らしが楽しみになりました」などの声があった。

避難の注意分かりやすく
園児たちに「防災紙芝居」

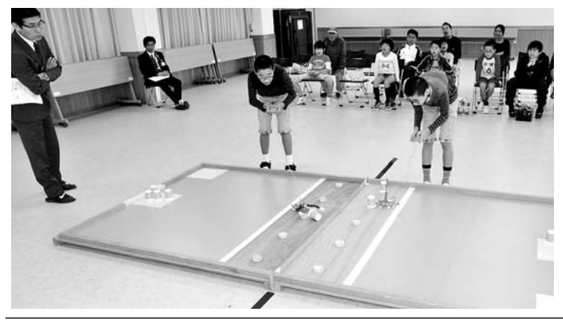
3年生防災デザイン選択生のうち「防災紙芝居」作成班は11月12日(水)、白梅保育園を訪れ紙芝居を上演した。当日は、生徒7人が園児と一緒に「ロンドン橋落ちた」でアイスブレーキング、お互いの緊張感をほぐし、その後自分たちが作成した「防災紙芝居」を上演した。紙芝居を通し、過去にこの地域で発生した地震のことや避難所までの安全な行き方などについて伝えた。さらに、上演した内容の理解を深めるため、楽しみながら「防災クイズ」を行った。最後に、災害での避難の注意事項「お・は・し・も」(おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない)を簡単なジェスチャーを交えながら演じ、終了した。

生徒達は、初めての上演で緊張していたが、事前に考えていた内容を無事演じることができた。帰るときには、園児たちから大きな声で見送られ、お互いに大きく手を振りながら別れた。

全日本小中学生ロボット選手権
新宮・東牟婁ブロック予選会を開催

「全日本小中学生ロボット選手権　新宮・東牟婁ブロック予選会」が11月8日(土)、本校キャリア教室で開かれた。

小学生の部で坂地迅斗君（神倉小6年）が優勝し、12月14日（日）に御坊市立体育館で行われる本戦への出場を決めた。小学生の部は、6足歩行ロボットを操作し、紙コップを決められたエリアに押して移動させ、相手とその数を競い会う競技。8人が二つのグループに分かれ各リーグ戦を行い、各グループ上位2人が決勝トーナメントに進出。準決勝、決勝を行った結果、激戦を勝ち抜いた坂地迅斗君がみごと優勝した。



高架橋の現場見学
建設・技術系列選択生

11月18日（火）に建設技術系列2、3年生の生徒が那智勝浦町の湯川第二高架橋の工事現場を見学した。午前中は2年生7人、午後は3年生8人が作業の行われている高架橋に上がって見学。

まず、施工を担当する(株)IHIインフラ建設作業所長の坂本誠一さんがあいさつ、その後、各担当者から「橋の歴史」や、「プレストレスト・コンクリート」については模型を使って説明を受けた。

また、現場ではコンクリートの表面から鉄筋や配線管などの位置を確認する「RCレーダー」の操作体験もあった。

2年生の森岡久貴君は「将来は建設関係に進みたい。今日は知らなかったことを知ることができた。将来に生かせると思いました」と感想を述べた。生徒たちにとっては大変有意義な現場見学となった。

活発に意見交換
中高連絡協議会

11月1日（土）から本年度のきのくに学び月間が始まった。本校では4日（火）から7日（金）を授業公開週間とし、4日には工業科、6日(木)には芸術科が研究授業を行った。5日（水）には中高連絡協議会が開催され、新宮市・東牟婁地方などの中学校11校が出席した。5限目に授業参観が行われ、参加した先生方が高校の授業の様子などを熱心に観察していた。協議会では永石校長から本校の教育方針や取り組み、生徒の状況などについての説明の後、教務部長から来年度の入学選抜試験について、生徒指導部長から本校の生徒の様子及び課題について説明を行い、活発な意見交換がなされた。また、本校1学年の担任団と懇談を行い、各中学校の先生方は送り出した生徒の高校での様子などについて熱心に耳を傾け、情報交換を行った。

収穫やジャム作り
北山村で「じゃばら学習」

11月20日（木）、地域文化系列２年生の生徒９人は北山村で校外実習を行った。午前中は、北山村観光の中心である筏下りに使用する筏用の大きな丸太の皮むきを体験した。担当の方から褒めていただくと、生徒は普段よりも明るい笑顔を浮かべていた。午後からは、じゃばらの収穫とジャム作りを体験した。初めて見るじゃばら畑の風景に感嘆の声を上げながら収穫を行い、その後のジャム作りでも終始笑顔が絶えなかった。生徒からは「次は筏下りにも是非来てみたい」「じゃばらはとても美味しかった」と貴重な体験学習に満足した様子であった。